

令和4年度
総合研究センター
未来創生研究部門

1：事業

- － 1 寺院／僧侶と現代社会
 - ・ ボランティア活動（支援活動）
 - － 宮城県亶理郡亶理町 活動報告

目的) 上記、当該活動を通じ、宗門における災害対策と、縮小する行政サービスのハブとしての寺院の公益性を調査。またソーシャルキャピタル（防災分野）としての地域寺院の役割を構築する方途を含め現地調査を実施する。

曹洞宗の理念として、誰ひとり取り残さない、持続可能な社会の実現にむけて、SDGsの観点から、さらなる連携を目指して当該活動を試みている。

※新型コロナウイルスの流行状況や現地受け入れ先の状態を注視しながら、支援および調査活動を慎重に進めることにする。

◆活動日時 12月23日（金）

◆人員

久保田永俊（常任研究員）

◆現地の支援窓口：福島県復興支援室分室 佐藤正乗 斎藤光輝
安達瑞樹（兵庫県第2-1-147 長楽寺）

12月23日（金）

活動場所 宮城県 亶理町 中央公民館

宮城県亶理町社会福祉協議会主催 さざんかの会 交流支援活動



(所感) 12月23日(金)宮城県亘理町での活動において、社会福祉協議会主催の住民交流会の支援で訪問した。前回11月22日に開催されたが、コロナ禍であるため、参加したい住民を2回に分けて、行っている。住民が一堂に会しての開催は難しいため、同じ内容を2回設定し、提供した。亘理町住民50名を対象とした「さざんかの会」である(主に独居による高齢者が対象。認知症のかたが数名含まれている)。ほかに、ボランティアおよび民生委員20名が参加していた。

安達瑞樹師による、小話、落語を実施。また同師によるギター演奏で、会場にいる参加者ととも歌唱した。コロナ禍であるため、大きな声での歌唱ではないが、大半のかたは歌っていた。

終って、会場参加者からの質問を二人で受けるかたちで、質問に回答し、仏教小話を交えて対応した。質問内容としては、「住職に階級あるのか」「お線香のあげかた」「仏壇の前での作法はあるのか」「住職さんの学歴について」など、質問は多岐にわたった。専門性が高い質問については、研究員が補完して回答している。

社会福祉協議会としては、コロナ前の活動水準に戻したいという意向もある。僧侶への期待や信頼に応えるべく、継続的に関われる取り組みを続けていく所存である。